

発行：〒656-0011 兵庫県洲本市炬口1-3-19 東亜天文学会速報部

郵便振替口座：00980-8-189107 加入者名：東亜天文学会速報部 購読料1部130円

Published by the Department of Yamamoto Circular, Oriental Astronomical Association

Collaborating with the Computing and Minor Planet Sections

P. O. Box No.32, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-8691 JAPAN

e-Mail address: (Subscription) URL: <http://www.oaa.gr.jp/~oaacs/yc.htm>

編集：中野 主一 ☎ 0799-22-3747 Fax: 23-1104 e-Mail address:

Editor: *Syuichi Nakano*, 3-19, Takenokuchi 1 Chome, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-0011 JAPAN

## ジャコビニ周期彗星 205P/Giacobini

山形の板垣公一氏ら (*K. Itagaki & H. Kaneda*) によって再発見されたこの彗星には、発見後、暗い分裂核が観測された。2008年10月上旬には、それぞれの核は、主核Aから西に位置し、分裂核Bは、約65"の位置 ( $\Delta T = +0.014$ 日)、分裂核Cは、約630"の位置 ( $\Delta T = +0.133$ 日)を動いている。芸西の関勉氏 (*T. Seki, Geisei*) の観測では、核Bは10月1日に核光度が19.9等くらいであった。なお、核Cは約21等級。100年以上見失われていたこの彗星が再発見されたのは、彗星がこの核の分裂で増光したことによるものだろう (cf. YC 2596)。

OAA 計算課では、1896年から2008年までに行なわれた874個の観測から連結軌道を次のように改良した。加重平均残差は $\pm 0''.77$  (<http://www.oaa.gr.jp/~oaacs/nk/nk1692.htm>)。

|                            |                            |                         |               |
|----------------------------|----------------------------|-------------------------|---------------|
| T = 2008 Sept. 10.05253 TT | Epoch = 2008 Sept. 11.0 TT |                         |               |
| $\omega = 154^\circ.22468$ | } (2000.0)                 | e = 0.5687509           | A1 = +1.274   |
| $\Omega = 179.63098$       |                            | a = 3.5395766 AU        | A2 = +0.02903 |
| i = 15.30381               |                            | $n^\circ = 0.148005241$ |               |
| q = 1.5264391 AU           |                            | P = 6.659年              |               |

## ボアッティニ新彗星 C/2008 S3 (Boattini)

ボアッティニ (*A. Boattini*) は、レモン山サーベイの1.5-m反射で2008年9月29日におうし座を撮影した搜索フレーム上の次の位置に18等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には15"ほどに伸びた強く集光した10"のコマが見られた。9月30日の米国のダーリグ (*D. T. Durig, Sewanee, TN*) による30-cmシュミット・カセグレインでの観測では、彗星には東に約10"の尾が見られた。イタリーのギドーら (*E. Guido, G. Sostero & P. Camilleri*) による米国にある25-cm反射を遠隔操作した同日の観測では、北西に伸びた約8"の集光したコマが見られている。さらにテーブル・マウンテンの61-cm反射でこの彗星を観測したヤング (*J. Young, Table Mountain*) は、彗星には、東に曲った短い約16"の尾が南南東に伸びていることを認めた (IAUC 8986)。10月31日の上尾の門田健一氏 (*K. Kadota, Ageo*) の観測によると彗星のCCD全光度は18.5等であった。

|                |   |        |                |      |
|----------------|---|--------|----------------|------|
| 2008 UT        | $\alpha$  | (2000) | $\delta$       | Mag. |
| Sept. 29.49105 | 04 <sup>h</sup> 42 <sup>m</sup> 49 <sup>s</sup> .71 |        | +18° 29' 48".3 | 18.4 |

OAA 計算課では、2008年9月29日から11月2日までに行なわれた94個の観測から次の軌道を決定した。彗星の近日点距離は $q = 8.02$  AUと大きく、現在、太陽から9.8 AUの遠方であり、その近日点通過は、発見約3年後の2011年6月頃。

|                         |                    |            |
|-------------------------|--------------------|------------|
| T = 2011 June 4.4208 TT | $\omega = 39.7502$ | } (2000.0) |
|                         | $\Omega = 54.9345$ |            |
| q = 8.023634 AU         | i = 162.7052       |            |

## シュワスマン・ワハマン第1周期彗星 29P/Schwassmann-Wachmann 1

カナリー諸島のヘンリゲス (*J. A. Henriquez, Tenerife*) からこの彗星が2008年9月20日頃に大きなバーストを起こしたことが伝えられた。氏のCCD全光度は、9月15日に14.8等、21日に11.3等であった。各地での眼視全光度は、9月23日に11.2等 (ネフスキ; ベラルーシ)、25日に10.9等、29日に10.7等 (ゴンザレス)、10月4日に10.4等 (吉田誠一; 群馬)、8日に10.5等 (パッパ)、11.3等 (永島和郎; 生駒, HAL)、11日に11.2等 (相川礼仁; 坂戸, HAL) と彗星は10等級まで増光した。CCD全光度も、9月22日に11.8等 (井狩)、11.4等 (門田)、26日に11.3等、10月3日に10.9等、12日に11.1等 (安部)、15日に11.0等、24日に11.2等 (門田) と明るく観測されている。なお、この彗星は2008年1月頃にも11等級まで増光したことが観測されているが、このときより規模が大きいバーストであった (cf. YC 2578, IAUC 8991)。

## オリオン座流星群 Orionids in 2008

神戸の豆田勝彦氏 (*Katsuhiko Mameta, Kobe*) は、同市北区八多町で月光の中、10月17/18日～21/22日にかけて、この流星群を観測を行なった。氏の報告によると、2006年ほどの活動 (cf. YC 2533) は、見られなかったが、10月20/21日の夜はZHRにして40個ほど、21/22日にはZHR60個ほどの出現が見られたという。氏の観測は、10月17/18日、観測時間28:00～29:00 JST、全流星8個、オリオン群5個、最微光星4.5等、以下、同順で、18/19日、26:00～27:00、11個、7個、4.7等、27:00～27:50、11個、8個、4.7等、28:00～29:00、15個、11個、4.7等、19/20日、23:00～23:40、3個、1個、4.8等、20/21日、27:00～28:00、17個、12個、5.0等、28:00～29:00、20個、14個、5.0等、21/22日、26:00～27:00、19個、15個、5.2等であった。

SETI 研究所のジェニスケンズ (*P. Jenniskens*) によると、IMO (International Meteor Organization) の観測では、同流星群は、2008年10月20日と21日にかけて、通常の出現より、活発な出現を示し、それぞれ、ZHRにして34個 (太陽黄経 $\lambda_{\odot}=207^{\circ}.0$ ) と33個 ( $\lambda_{\odot}=208^{\circ}.2$ ) ほどの出現が見られたという。これは、1P/Halley 彗星が-1265年に放出したダストトレイルから予報された時刻 (10月19日11時～17時 JST) より1日以上、遅かったという (cf. YC 2571, CBET 1543)。

## ボアッティーニ新周期彗星 P/2008 T1 (Boattini)

ボアッティーニ (*A. Boattini*) は、レモン山サーベイの1.5-m反射で2008年10月1日にお座を撮影した搜索フレーム上の次の位置に18等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には10"ほどのコマと西に伸びた60"ほどの扇形の尾が見られた。10月2日に同所でヒルによって撮られた画像では、彗星のコマは11"で、西北西に40"～50"に広がった拡散した尾が観測された。同じ日、彗星は多くの観測者によって捕らえられ、彗星には、西に150"ほどに広がった尾が見られている。なお、彗星は、スペース・ウォッチサーベイで撮影されていた2008年9月2日と21日の搜索フレーム上に発見前の観測が見つかった (IAUC 8988)。

| 2008 UT      | $\alpha$  | (2000) | $\delta$  | Mag. |
|--------------|---|--------|-----------|------|
| Oct. 1.34535 | 00 <sup>h</sup> 42 <sup>m</sup> 43 <sup>s</sup> .52 | +07°   | 48' 45".6 | 18.0 |

OAA 計算課では、2008年9月2日から11月4日までに行なわれた172個の観測から次の軌道を決定した。平均残差は $\pm 0''.61$ 。彗星のCCD全光度は、上尾の門田健一氏 (*K. Kadota, Ageo*) から10月3日に17.9等と報告されている。なお、守山の井狩康一氏 (10月8日、18日) と芸西の関勉氏 (10月27日) から観測が報告された。彗星は周期が9年ほどの新周期彗星であった。

|                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| T = 2008 Feb. 26.5438 TT   | Epoch = 2008 Feb. 24.0 TT |
| $\omega = 35^{\circ}.9186$ | e = 0.281250              |
| $\Omega = 291.7430$        | a = 4.233695 AU           |
| i = 2.0829                 | $n^{\circ} = 0.1131422$   |
| q = 3.042969 AU            | P = 8.71 年                |

## カーディナル新彗星 C/2008 T2 (Cardinal)

カーディナル (*Rob D. Cardinal, Priddis*) は、プリディスにあるカルガリー大学の50-cm f/1.0反射で2008年10月1日に北天きりん座を撮影したCCDフレーム上の次の位置に北東に移動する16等級の小惑星状天体を発見した。10月8日になって、2.4-m f/8.9反射でこの天体を観測した米国のライアン (*W. H. Ryan, Socorro, NM*) は、この天体には拡散しており、北西に尾が見られることが報告された。同じ日、56-cm反射でハグ (*G. Hug, Scranton, KS*) も、天体にはコマがあり、それが西北西に広がっていること。守山の井狩康一氏 (*Y. Ikari, Moriyama*) から、天体には0'.3ほどのコマと西に0'.4の尾が見られること。テーブルマウンテンのヤング (*J. Young, Table Mountain*) から、同日、天体には明るい12"のコマがあって、その全光度は14.5等、西に大きく広がった1'ほどの扇形の尾が見られることが報告され、この天体は、彗星であることが判明した (IAUC 8993)。彗星の観測は、その後、芸西の関勉氏 (*T. Seki*) から10月8日、伊賀の田中利彦氏 (*T. Tanaka*) と井狩氏、上尾の門田健一氏 (*K. Kadota*) から9日の観測が報告された。彗星のCCD全光度は、田中氏が10月9日に14.9等、門田氏が16.0等、八束の安部裕史氏 (*H. Abe*) が12日に16.2等、門田氏が15日に16.0等、秦野の浅見敦夫氏 (*A. Asami*) が16日に16.2等、門田氏が27日に15.9等、11月13日に15.8等と観測している。順調に成長すれば、彗星は、来年夏頃に8等級まで明るくなるだろう。

| 2008 UT      | $\alpha$  | (2000) | $\delta$  | Mag. |
|--------------|---|--------|-----------|------|
| Oct. 1.16119 | 07 <sup>h</sup> 05 <sup>m</sup> 15 <sup>s</sup> .37 | +80°   | 03' 54".8 | 16.0 |

OAA 計算課では、2008年10月1日から11月9日までに行なわれた177個の観測から次の軌道を決定した。

|                          |                             |            |
|--------------------------|-----------------------------|------------|
| T = 2009 June 13.2873 TT | $\omega = 215^{\circ}.8715$ | } (2000.0) |
|                          | $\Omega = 309.6904$         |            |
| q = 1.202268 AU          | i = 56.3019                 |            |